

# 自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の目撃記録 (18)

久 居 宣 夫\*

Notes on Newly or Rarely Observed Animal Species  
in the Institute for Nature Study (18)

Nobuo Hisai\*

## は じ め に

今回は、2007年1月から2007年12月までに新たに生息が確認されたり、目撃された種あるいは前報(久居, 2007)までに記録がもれた種について報告する。稀種については、「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)中で、r: “稀”, または(r): “古い記録はあるが、現在未確認の種”とされている全ての種を対象にしたが、これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著しく減少した一部の種も対象とした。

なお、日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日を、以下目撃または捕獲地点(図1参照)および目撃者、捕獲者名をそれぞれ示し、氏名のない場合は筆者の記録によるものを示す。

本報告をまとめるにあたって、同定ならびにご教示を賜った国立科学博物館動物研究部の野村周平博士、また日頃より貴重な情報を提供してくださった下記の方々に感謝の意を表する次第である(50音順、敬称略)。

飯田晋一郎(SI), 石井雅樹(MI), 大澤陽一郎(YO), 神森芳行(YK), 桑原香弥美(KK), 須田研司(KS), 福田盛明(MF), 福田 光(MIF), 矢野 亮(MY), 吉井三恵子(MIY), 吉野由美子(YY), 若松克己(KW)

## 1. 追 録

### 節足動物門 Arthropoda

#### 昆虫綱 Insecta

マエグロハネナガウンカ *Zoraida pterophoroides* (Westwood) (カメムシ目ハネナガウンカ科)

2007.10.19 路傍植物園 1ex KK

路傍植物園に生育するシモバシラの葉裏に2個体付いていた内の1個体を捕獲した。

本種は国内では本州および九州の山地に生息する稀種である(石原, 1965)。本園に古くから生息していたものか、最近侵入したものかその経緯は明らかではない。

---

\*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science, Tokyo

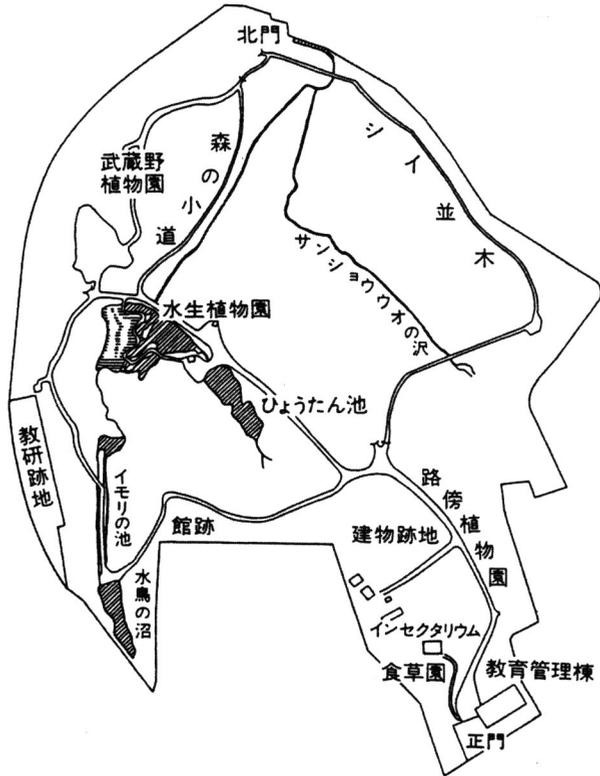


図1. 自然教育園概略図

本園で記録されているハネナガウンカ類としては、これまでに1952年の目録（鶴田ほか，1952）に収録されているアカハネナガウンカのほかに、1996年に初めて見つかりその後も記録されている山地性稀種のアヤヘリハネナガウンカが知られている（久居，1997，1999，2000）。

エゴノネコアシアブラムシ *Ceratovacuna nekoashi* (Sasaki) (カメムシ目アブラムシ科) (図2)

2007.7.6 水生植物園，イモリの池付近

本園におけるアブラムシ類の目録（松本，2001）にも収録されていなかった記録もれの種である。本種によって形成される特異的な形をした「エゴノネコアシ」と呼ばれる虫えいが毎年のように上記の場所に生育するエゴノキで6-7月によく見られる。有翅は7月に出現し、2次寄生のイネ科のアシボソへ移住する（湯川・栢田，1996）。

アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus) (チョウ目タテハチョウ科)

2007.10.3 水生植物園 1ex KS

本種は、本来の分布域は奄美諸島以南であるが、最近埼玉県や神奈川県などで相次いで成虫が捕獲されている。これらは奄美大島産や台湾産の亜種 *formosana* (Moore) ではなく中国大陸から朝鮮半島に分布する亜種の *assimilis* (Linnaeus) であることから放蝶あるいは飼育個体の逸出などによる可能性

が高い(白水, 2006)。そして、東京周辺でも頻繁に目撃されるようになり、2007年には葛飾区水元公園、杉並区南荻窪、府中市是政、西東京市などで、また千葉県富津市でも見つかリ、さらに杉並区南荻窪の住宅の庭では食餌植物のエノキに付いていた幼虫が見つかるなど繁殖し定着しつつある(須田, 私信)。また、神奈川県では1998年に藤沢市で1♂が目撃されて以来発生を繰り返シ、現在では横浜市全域で越冬幼虫が確認されている(山本, 2007)。

シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis* (Gory et Percheron) (コウチュウ目コガネムシ科)

2007.7.27 水生植物園 1ex 野村周平氏同定

スズメバチ用のトラップで捕獲された。

特にまれな種ではないがこれまで本園では記録がなかった。本種は本来やや海岸に近い地域に生息し、皇居では2006年に初めて見つかった(野村, 私信)。また新宿御苑でも記録されている(吉野, 2006)が、赤坂御用地では見つかっていない(野村・平野, 2005)。本園では近年ハナムグリ類をはじめとする大型のコガネムシ類が減少する傾向が見られる。

シロジュウシホシテントウ *Calvia quatuordecimguttata* (Linnaeus) (コウチュウ目テントウムシ科) (図3)

2007.7.5 水鳥の沼 1ex SI

上記の場所で、葉上に止まっていた個体が目撃されたもの。国内では北海道から九州、対馬に分布し、山沿いや山地に生息する(初宿, 1999)。

## 2. 稀 種 の 記 録

### (1) 昆 虫 類

ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus* (Fabricius) (トンボ目サナエトンボ科) (図4)

2007.7.31 水生植物園 1ex SI

本園ではまれに飛来個体が観察される程度で、最近では2002年に記録されている(久居, 2004)。

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys) (トンボ目ヤンマ科)

2007.6.7 食草園 1♀ KK

本園では最近目撃例が多くなり、園内で産卵しているのが観察されている(久居, 2007)。

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys) (トンボ目ヤンマ科)

2007.7.29 水生植物園 KS

2001年に初めて記録され(久居, 2004)、それ以後まれに見られる。

チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys (トンボ目トンボ科) (図5)

2007.6.19 水生植物園 1ex YO; 7.20 水生植物園 4exs SI; 7.24 水生植物園 1ex KK; 7.29 水生植物園 KS; 7.31 水生植物園 4exs SI; 8.8 水生植物園 4exs MY et KK

本種はここ数年上記の場所で毎年1-2個体見られるが、今回は同一と考えられる4個体がかかなり長期間にわたって滞在するのが観察された。

ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* (Signoret) (カメムシ目サシガメ科) (図6)

2007.5.26 水生植物園 1ex; 6.2 水鳥の沼 1ex SI

本種は2006年に初めて記録された(久居, 2007)が, 今回は複数個体が目撃されたことから, 本園でも増えつつあることを示唆している。

オオホシカメムシ *Physopelta gutta* (Burmeister) (カメムシ目オオホシカメムシ科)

2007.12.4 教育管理棟内 1ex KK

本種は普通種であるが本園での記録は少なく, 過去に1992年と2003年の記録があるのみである(久居, 1993, 2004)。

ブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccarum* (Linnaeus) (カメムシ目カメムシ科) (図7)

2007.6.28 水鳥の沼 1ex SI

1952年の昆虫目録には収録されている(鶴田ほか, 1952)が, その後の記録はなく本園ではまれな種である。マメ科やキク科など多くの植物を好む(友国, 1993)。

クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker) (カメムシ目セミ科)

2007.8.3 正門前 KK; 8.6 西便所付近 KK; 8.9 水生植物園 KK; 8.26 教育管理棟裏 KK

毎年夏に数回鳴き声が聞かれる。

キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C.et R.Felder (チョウ目アゲハチョウ科)

2007.8.6 水生植物園 1ex KK; 9.13 1♀ SI

最近では毎年上記の場所で見られる。

モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* Butler (チョウ目アゲハチョウ科)

2007.5.24 正門前 1ex; 7.20 食草園 1ex

上記の記録はいずれも新鮮な個体が目撃されたものである。

ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* von Siebold (チョウ目アゲハチョウ科) (図8)

2007.5.8 正門前 1♂; 5.10 食草園 1♂; 5.16; 食草園 1♂; 5.26 路傍植物園 KS; 7.6 食草園 1♂; 7.11 正門前 1♂; 7.12 正門前 1♂, 食草園 1♂, 武蔵野植物園 2♂ SI, イリの池 1♂ SI; 7.16 路傍植物園 1♂; 7.20 食草園 1♂; 7.22 正門前 1♀, 路傍植物園 1♂ MY; 7.25 食草園 1♂, 路傍植物園 1♂ SI; 7.29 食草園 1♂, 水鳥の沼 KS; 7.31 食草園 1♂; 8.7 SI; 8.12 水生植物園 1♂; 8.13 食草園 1♂; 8.20 路傍植物園 2♂ KK; 8.21 正門前 1♂; 9.4 水生植物園 1♀ MY; 9.5 正門前 1♀; 9.13 食草園 1♂; 10.12 正門前 1♂

雄の目撃例が多く, 同一個体と考えられる雄が数日にわたって園内を飛翔するのが観察された。また, 7月12日のように複数の別個体が目撃されることもあり, 園内で確実に繁殖し増加していると考えられる。

モンキチョウ *Colias erate poliographus* Motschulsky (チョウ目シロチョウ科)

2006.10.26 水生植物園 KS; 2007.6.6 水生植物園 1♀; 7.29 水生植物園 KS; 8.21 水生植物園 1♀ SI; 10.13 1♀ SI; 10.24 1ex SI

最近わずかではあるが増えつつあるように思える。

スジグロシロチョウ *Pieris melete* (Ménétriès) (チョウ目シロチョウ科)

2007.4.7 建物跡地 1ex; 4.10 武蔵野植物園 1ex, 水生植物園 1ex SI, 水鳥の沼 1ex SI; 4.15 サンショウウオの沢 2exs MI, 水生植物園東側湿地 4exs MI; 4.26 食草園 1ex; 5.29 食草園 1ex; 6.8 武蔵野植物園 1ex SI; 6.12 食草園 1ex, 武蔵野植物園 2exs; 7.8 SI; 7.16 水生植物園 1ex; 7.18 正門前 1♀ MY; 7.27 正門前 1ex; 8.12 正門前 1ex; 9.13 正門前 1ex

2006年の観察例はわずか1例にしかすぎなかったが、今回は春から秋まで園内のいたる場所で目撃された。

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* Butler (チョウ目シロチョウ科) (図9)

2007.3.28 建物跡地 1♂; 4.1 正門前, 食草園, 建物跡地, 水生植物園; 4.5 水生植物園東側湿地5♂; 4.6 食草園 2♂, 建物跡地 1♂, 水生植物園 2♂, 水生植物園東側湿地 5♂, 教研跡地 1♂1♀, 4.7 建物跡地 1♀, 4.10 建物跡地 2♀, 水生植物園東側湿地 6♂3♀, 教研跡地 2♀, 水鳥の沼 1♂ SI, 4.14 水鳥の沼 1♀ SI; 4.15 サンショウウオの沢 2exs MI, 水生植物園東側湿地 4exs MI; 4.20 水生植物園 2exs, 武蔵野植物園 1ex; 4.21 正門前 1♀, 水生植物園 1♀, 武蔵野植物園 1♀; 4.26 建物跡地 1♂1♀, 水生植物園 2exs, 水生植物園東側湿地 2♂2♀

最近はかなり個体数が増加し、発生の最盛期にはモンシロチョウよりも多く見られるほどに回復している。

ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* de Nicéville (チョウ目シジミチョウ科)

2007.3.7 SI; 3.20 正門前 1ex MY; 3.23 正門前 1♂; 4.30 1♀ SI; 7.11 正門前 1ex; 8.7 1ex SI; 8.9 武蔵野植物園 1ex KK; 8.16 水生植物園 1♂ SI; 8.19 水生植物園 1♂; 8.24 1ex SI; 9.8 1ex SI; 9.9 水生植物園 1♂ SI; 9.16 水生植物園 1♂; 10.4 水生植物園 1♂; 10.11 水生植物園 1♂; 10.21 1♀ SI; 10.24 建物跡地 1♂, 水生植物園 1♂; 10.25 正門前 1ex; 11.8 1♂ SI; 11.13 水生植物園 1♀; 11.14 1♂ SI; 11.24 1♀ SI; 12.9 1ex SI

ムラサキシジミ *Narathura japonica* (Murray) (チョウ目シジミチョウ科) (図10)

2007.2.15 正門前 1♂ YY; 3.4 食草園 1ex MY; 3.26 1ex SI; 3.28 正門前 1ex, 食草園 4exs, 教研跡地 1ex; 4.1 路傍植物園 1ex; 4.26 路傍植物園 1ex, 水生植物園 1ex; 5.11 1ex SI; 6.16 食草園 1ex; 6.19 水生植物園 1ex; 6.20 路傍植物園 1ex; 6.28 正門前 1ex, 食草園 1ex; 7.5 正門前 1ex; 7.25 あずまや付近 1ex; 7.26 教育管理棟裏 1ex; 7.29 路傍植物園 1ex KK; 8.7 食草園 1ex; 8.9 1ex SI; 8.10 教育管理棟裏 1ex; 8.13 食草園 3exs, 8.16 路傍植物園 1ex SI; 8.26 路傍植物園 1ex KK; 8.27 1ex SI; 9.4 1ex SI; 9.8 1ex SI; 9.14 正門前 1ex KK; 9.27 食草園 1ex; 10.11 武蔵野植物園 1ex; 10.12 建物跡地 1ex, 水生植物園 1ex; 10.24 正門前 2exs, 食草園 2exs, 建物跡地 5exs, 水生植物園 1ex, イモリの池

4exs; 11.4 1ex SI; 11.7 1ex SI; 11.8 1ex SI; 12.5 1ex SI; 12.7 イモリの池 1ex MF et MIF; 12.12 水生植物園 1♂, 水鳥の沼 1♂1♀

今回は2006年よりもさらに発生が多く, 10月24日には園内全域で少なくとも15個体を観察した。

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* (Butler) (チョウ目シジミチョウ科)

2007.8.20 教育管理棟前 1♀ KK; 10.30 路傍植物園 1ex; 11.4 1ex SI; 11.8 1♂1♀ SI

目撃例は少ないが, 2002年の初記録(久居, 2004)以後は毎年見られ園内に定着しているのは確実と考えられる。

アカシジミ *Japonica lutea* (Hewitson) (チョウ目シジミチョウ科) (図11)

2007.5.29 イモリの池 2exs SI et YK; 5.30 正門前 1ex; 6.6 正門前 1ex; 6.9 1ex SI; 6.16 サンショウウオの沢 1ex

2003年以後は毎年目撃されており, 園内で確実に発生しているものと考えられる。

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (Bremer) (チョウ目シジミチョウ科) (図12)

2007.6.3 水鳥の沼 1ex SI et YK

個体数は少ないが, ほぼ毎年見られる。

トラフシジミ *Rapala arata* (Bremer) (チョウ目シジミチョウ科) (図13)

2007.3.28 食草園 1ex; 5.26 水生植物園 KS; 6.8 水鳥の沼 1ex SI; 6.17 水鳥の沼 1ex SI; 6.19 路傍植物園 1ex; 6.20 路傍植物園 1ex, 水鳥の沼 1ex SI; 6.21 1ex SI; 6.27 1ex SI; 7.16 建物跡地 1ex; 7.29 1ex SI; 8.14 教育管理棟裏 1ex, サンショウウオの沢 1ex

本種も毎年見られ, 最近若干増えつつある。

ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura) (チョウ目シジミチョウ科) (図14)

2007.4.1 1ex SI; 4.12 水生植物園 1ex SI; 6.12 食草園 1ex; 9.4 1ex SI; 10.19 水生植物園 1ex MF et MIF; 10.30 水生植物園 1ex SI;

今回は例年よりも目撃されることが多かった。

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (Fabricius) (チョウ目シジミチョウ科)

2007.9.28 SI; 10.11 水生植物園 3exs; 10.12 水生植物園 4exs; 10.13 SI; 11.1 水生植物園 1ex; 11.7 SI; 11.8 SI

本種は秋にまれに見られる。

テングチョウ *Libythea lepita celtoides* Fruhstorfer (チョウ目テングチョウ科) (図15)

2007.3.8 食草園 1ex; 5.29 食草園 1ex; 7.8 1ex SI; 7.27 正門前 1ex

本種も毎年のように見られるが, 最近発生個体数が減少しつつある。

アサギマダラ *Parantica sita niponica* (Moore) (チョウ目マダラチョウ科) (図16)

2007.5.22 館跡 1ex MF et MIF; 7.19 路傍植物園 1ex KK; 9.16 森の小道 1ex SI; 10.4 武蔵野植物園 1ex; 10.6 1♂ SI; 10.7 1♀; 10.10 武蔵野植物園 1ex; 10.11 水生植物園 2exs, 武蔵野植物園 2exs SI; 10.12 水生植物園 2exs, 武蔵野植物園 3exs; 10.13 1♂1♀ SI; 10.24 イモリの池 1ex

本種も毎年数回1-2個体が目撃される。今回は10月12日に武蔵野植物園と水生植物園で5個体がほぼ同時に観察されるなど、例年になく目撃回数や個体数が多かった。なお、2004年に武蔵野植物園のキジョランで幼虫が見られた(久居, 2005)が、その後は卵および幼虫が付いているのは観察されていない。

コミスジ *Neptis sappho intermedia* W.B.Pryer (チョウ目タテハチョウ科)

2007.5.4 正門前 1ex MY; 10.19 イモリの池 1ex MY

本園では一時絶滅したと考えられる蝶で、1996年に再見された(久居, 1997)が、その後もきわめてまれに見られる程度で、最近では1999年に食草園で目撃された記録がある(久居, 2000)。

コムラサキ *Apatura metis substituta* Butler (チョウ目タテハチョウ科)

2006.8.20 水生植物園 1ex KS; 2007.10.11 水生植物園 1♂ KW

2007年の記録は入園者が携帯電話のデジタルカメラで撮影した映像によって本種と確認されたものである。

本種も一時東京都区内の緑地から姿を消した蝶の一種であるが、本園では2002年以後毎年まれに見られる。最近都区内の緑地でも目撃されるようになり、杉並区善福寺公園や練馬区石神井公園のほか三鷹市井の頭恩賜公園などで記録されている(須田, 私信)。同様の例は川崎市でも知られ、同市では1950年代末以後の記録はほとんどなかったが、2006年に再発生しその後は徐々に分布を広げているという(山本, 2007)。

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* (Linnaeus) (チョウ目タテハチョウ科) (図17)

2007.9.26 水生植物園 1ex; 10.11 水生植物園 1ex

毎年ではないがまれに見られる。

アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst) (チョウ目タテハチョウ科)

2007.10.25 SI; 10.26 路傍植物園 1ex KK

本種も毎年ではないがまれに見られ、園内で発生することもある。

ルリタテハ *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold) (チョウ目タテハチョウ科)

2007.3.14 正門前 1ex MY; 4.6 教研跡地 1ex; 8.19 水生植物園 1ex; 8.26 水生植物園 1ex; 9.7 水生植物園 1ex MF et MIF

ミドリヒョウモン *Argynnis paphia tsushimana* Fruhstorfer (チョウ目タテハチョウ科)

2007.8.12 食草園 1ex MY; 9.5 正門前 1ex SI

ツماغロヒョウモン *Argyreus hyperbius* (Linnaeus) (チョウ目タテハチョウ科)

2007.4.26 水生植物園 1♀; 5.2 食草園 1♀; 5.8 SI; 5.12 SI; 5.16 食草園 1♂; 5.23 水生植物園 1♂;  
6.19 正門前 1♂, 水生植物園 1♂; 6.23 SI; 7.3 正門前 1♀; 7.6 正門前 1♀; 7.16 SI; 7.24 正門前 1♂;  
8.7 正門前 1♂; 8.8 食草園 1♀; 8.13 水生植物園 1♂; 8.16 SI; 8.23 水生植物園 1♀; 8.24 水生植物園  
1♀ SI; 9.4 正門前 1♂; 9.14 水生植物園 1♀; 9.15 1♀ SI; 9.16 食草園 1♀; 9.17 1♀ SI; 9.19 水生  
植物園 1♂1♀; 9.23 水生植物園 1♀; 9.26 水生植物園 3♂2♀; 9.27 正門前 1♂, 食草園 1♀, 水  
生植物園 2♂3♀, 教研跡地 1♀; 10.4 1♂1♀ SI; 10.6 1♀ SI; 10.7 1♂1♀ SI; 10.11 水生植物園 3♂  
2♀, 食草園 1♀; 10.12 水生植物園 2♂3♀; 10.13 SI; 10.21 1♂ SI; 10.24 水生植物園 2♂1♀; 10.25  
1♀; 10.28 1♂1♀ SI; 11.1 水生植物園 1♂1♀; 11.13 水生植物園 1♂; 11.15 SI

本種はここ数年で普通種といえるほどに増加した。

クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura (チョウ目ジャノメチョウ科)

2007.5.26 サンショウウオの沢 KS; 10.10 水生植物園 1ex KS; 11.1 森の小道 1ex KS  
1987年に初めて記録され (久居, 1989), その後はまれに見られる。

セミヤドリガ *Epipomponia nawai* (Dyar) (チョウ目セミヤドリガ科)

2007.8.29 武蔵野植物園 1ex KK

本種は2006年に初めて記録された (久居, 2007)。宿主はおもにヒグラシであるが, 今回はミンミン  
ゼミに寄生していた。

オオミズアオ *Actias artemis* (Bremer et Grey) (チョウ目ヤママユガ科)

2007.5.23 三叉路付近

上記の場所で左後翅が見つかった。

ウンモンズズメ *Callambulyx tatarinovii* (Bremer et Grey) (チョウ目ズズメガ科)

2007.6.24 正門前 1ex MIY; 10.3 教育管理棟前 (終齢幼虫) KK

正門前のケヤキの幹上で羽化したばかりの個体が見られ, 秋には幼虫が見つかった。食餌植物はニ  
レ科のケヤキやアキニレ・ハルニレなどで, 2006年にも正門前で羽化直後の個体が目撃されている  
(久居, 2007) ので, 同所に生育するケヤキで発生していると考えられる。

ブドウズズメ *Acosmeryx castanea* Rothschild et Jordan (チョウ目ズズメガ科)

2007.10.2 水鳥の沼 KK

ヤブガラシに付いていた終齢幼虫を見つけた記録である。本種は年2化で, 食餌植物はブドウ科で  
(中臣, 1987), ヤブガラシやノブドウ・ツタは園内にふつうに生育している。北海道から九州に分布  
する。

キイロスズメ *Theretra nesus* (Drury) (チョウ目ズズメガ科) (図18)

2007.6.16 正門前 1ex SI

食餌植物はヤマノイモ科のヤマノイモやオニドコロなどで、これらは園内にふつうに生育している。国内での分布は本州から九州、奄美大島などである。

ビロードスズメ *Rhagastis mongoliana* (Butler) (チョウ目スズメガ科)

2007.8.3 KK

アカバナ科のミズタマソウに付いていた終齢幼虫を見つけた記録である。食餌植物はアカバナ科、ブドウ科、アカネ科などである。国内での分布は本州から九州である。

以上の3種のスズメガ類は、1952年の目録(鶴田ほか, 1952)に収録されているが、その後は記録されていない。

アケビコノハ *Eudocima tyrannus* (Guenée) (チョウ目ヤガ科)

2007.7.29 サンショウウオの沢 KS; 9.13 食草園付近

本種は特に最近よく見られるようになり、時々園路で鳥に捕食されたものと考えられる翅が落ちているのが見つかる。

ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus* (Motschulsky) (コウチュウ目クワガタムシ科)

2007.7.8 水生植物園 1♂; 7.16 シイ並木 1♀; 7.18 水生植物園 4♂3♀; 8.7 水生植物園 1♂3♀

本種は2000年にも記録されている(久居, 2001)が、それ以前は全く記録が途絶えていた。今回上記の場所に設置したスズメバチ用のトラップで多数の雌雄が捕獲されたことは、園内で多くの個体が発生したことを示唆するものである。これは、最近園内でミズキなどの樹木が多く枯死していることに関係しているのかもしれない。

アオドウガネ *Anomala albopilosa* Hope (コウチュウ目コガネムシ科) (図19)

2006.9.15 水鳥の沼 1ex SI

本種は普通種であるが、本園では近年本種を含む大型のコガネムシ類が激減しているのでここに記録しておく。

カナブン *Pseudotorynorhina japonica* (Hope) (コウチュウ目コガネムシ科)

2007.7.27 水生植物園 1ex

上記の場所に設置したスズメバチ用トラップで捕獲された。本種も前種と同様に本園ではあまり見られなくなったのでここに記録しておく。国内では本州から九州などに分布し、樹液や熟果に集まる。

コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (Faldermann) (コウチュウ目コガネムシ科) (図20)

2007.5.26 水鳥の沼 1ex SI

本種も本園では少なくなったハナムグリ類の一種である。春と秋に多く出現し、花に集まる。

ヒゲナガハナノミ *Paralichas pectinatus* (Kiesenwetter) (コウチュウ目ナガハナノミ科) (図21)

2007.5.16 水鳥の沼 SI; 5.18 SI; 5.20 SI; 5.23 SI

サンショウウオの沢やイモリの池付近で見られる。

トラフコメツキ *Selatosomus onerosus* (Lewis) (コウチュウ目コメツキムシ科) (図22)

2007.5.8 水鳥の沼 SI

1952年の目録(鶴田ほか, 1952)に収録されているが、その後の記録はない。本州から九州の平地で春に出現するが少ない(中根, 1955)。

フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus muscosus* (Bates) (コウチュウ目カミキリムシ科)

2007.7.8 正門前 1ex

本種は1998年に大野正男氏によって初めて見つかったとされている(久居, 1999)が、その後、青木(1989)によってすでに記録されているがわかり今回は3例目の記録である。本種は黒潮が流れる沿岸地方のかなり北までの暖帯から温帯樹林帯の花に集まり、海岸気候性カミキリの指標種と考えられている(林, 1984)。

キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis* (Pascoe) (コウチュウ目カミキリムシ科) (図23)

2006.6.15 1ex SI

1952年の目録(鶴田ほか, 1952)に収録されているが、その後の記録はない。5月下旬から6月上旬に花やコナラ・クヌギなどの伐採木に集まる(小島・林, 1969)。国内では本州から九州などに分布する。

キボシカミキリ *Psacotheta hilaris* (Pascoe) (コウチュウ目カミキリムシ科) (図24)

2007.11.14 水生植物園 1ex SI

1952年の目録(鶴田ほか, 1952)のほか青木(1989)にも記録されているが、個体数は少なくあまり見られない。本種は地域的な変異が多く見られ、東京付近産は体の斑紋が白色となって小さく、前胸背両側の縦条が連続する(森本, 2007)。

クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis* Motschulsky (コウチュウ目ハムシ科) (図25)

2006.7.22 水生植物園 1ex SI

本種は1989年に再見され(久居, 1990)、その後まれに見られる。

## (2) その他

ヒバカリ *Amphiesma vibakari* (Boie) (トカゲ目ナミヘビ科)

2007.6.6 1ex KK; 6.22 教育管理棟内 1ex (幼蛇) KK; 8.29水生植物園 1ex KK

2002年以後時々見られる。最近多少増えているようである。

タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (Gray) (ネコ目イヌ科)

2007.11.3 あずまや付近

本種は2006年にも記録されている(久居, 2007)が, 同一個体か否かは不明である。今回目撃されたのは, 毛並みがよく栄養状態がよい太った個体であった。

## 引用文献

- 青木 良. 1989. 昆虫類. 港区生物現況調査報告書, 98-178. 日本自然保護協会.
- 林 匡夫. 1984. カミキリムシ科. 「原色日本甲虫図鑑 (IV)」(林 匡夫他編著), 1-146. 保育社.
- 久居宣夫. 1989. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(2). 自然教育園報告, (20):1-13.
- 久居宣夫. 1990. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(3). 自然教育園報告, (21):11-21.
- 久居宣夫. 1993. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(5). 自然教育園報告, (24):1-8.
- 久居宣夫. 1997. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(9). 自然教育園報告, (28):27-31.
- 久居宣夫. 1999. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(11). 自然教育園報告, (30):17-24.
- 久居宣夫. 2000. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(12). 自然教育園報告, (31):1-8.
- 久居宣夫. 2001. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(13). 自然教育園報告, (32):31-37.
- 久居宣夫. 2004. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(14). 自然教育園報告, (35):1-13.
- 久居宣夫. 2005. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(15). 自然教育園報告, (36):21-29.
- 久居宣夫. 2007. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(17). 自然教育園報告, (38):1-18.
- 石原 保. 1965. ハネナガウンカ科. 「原色昆虫大図鑑 (III)」(朝比奈正二郎他監修), 130. 北隆館.
- 小島圭三・林 匡夫. 1969. 原色日本昆虫生態図鑑 (I) カミキリ編. 294pp. 保育社.
- 国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.
- 松本嘉幸. 2001. 自然教育園のアブラムシ類. 自然教育園報告, (33):331-340.
- 森本 桂 (監修). 2007. 新訂原色昆虫大図鑑第II巻 (甲虫篇). 526pp. 北隆館.
- 中根猛彦 (監修). 1955. 原色日本昆虫図鑑 (上)・甲虫編. 274pp. 保育社.
- 中臣謙太郎. 1987. スズメガ科. 「日本産蛾類生態図鑑」(杉 繁郎編), 126-134. 講談社.
- 野村周平・平野幸彦. 2005. 赤坂御用地ならびに常盤松御用邸の甲虫相. 国立科博専報, (39):183-223.
- 白水 隆. 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp. 学習研究社.
- 初宿成彦. 1999. ミニガイドNo.16 「大阪のテントウムシ」. 39pp. 大阪市立自然史博物館.
- 友国雅章 (監修). 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 380pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 鶴田総一郎ほか. 1952. 国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱. 国立自然教育園基礎資料, (1):1-42.
- 文部省国立自然教育園.
- 山本 晃. 2007. 川崎市中南部に於ける蝶類の観察記録. 川崎市自然環境調査報告VI, 215-225. 川崎市教育委員会.
- 吉野 勲. 2006. 「母と子の森」17年間の動物の記録. 里山の自然研究, (6):65-81. (特定)むさしの里山研究会.
- 湯川淳一・榎田 長 (編著). 1996. 日本原色虫えい図鑑. 826pp. 全国農村教育協会, 東京.



図2. エゴノネコアシ  
(2007.7.19 水生植物園 吉野由美子撮影)



図3. シロジュウシホシテントウ  
(2007.7.5 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図4. ウチワヤンマ  
(2007.7.31 水生植物園 飯田晋一郎撮影)



図5. チョウトンボ  
(2007.7.20 水生植物園 飯田晋一郎撮影)

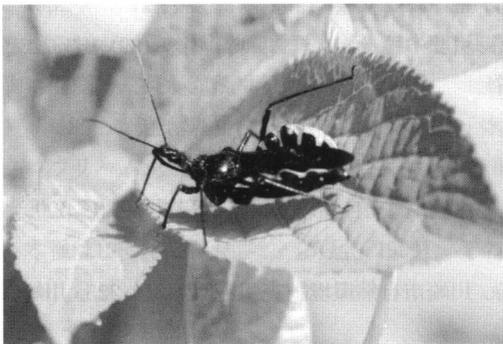


図6. ヨコヅナサシガメ  
(2007.6.2 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)

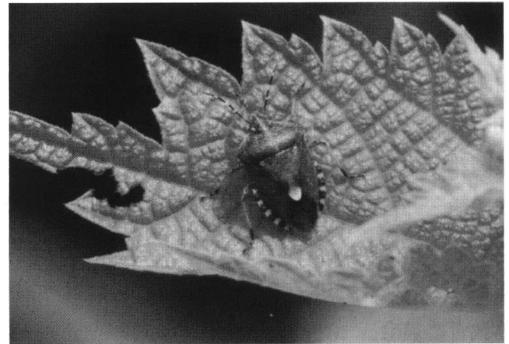


図7. ブチヒゲカメムシ  
(2007.6.28 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図8. ナガサキアゲハ  
(2007. 7. 25 路傍植物園 飯田晋一郎撮影)



図9. ツマキチョウ  
(2007. 4. 14 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図10. ムラサキシジミ  
(2007. 10. 24 食草園 撮影)

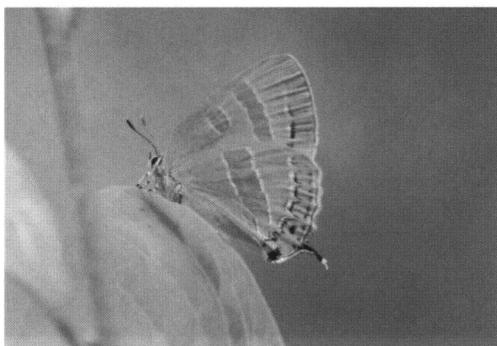


図11. アカシジミ  
(2007. 5. 29 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)

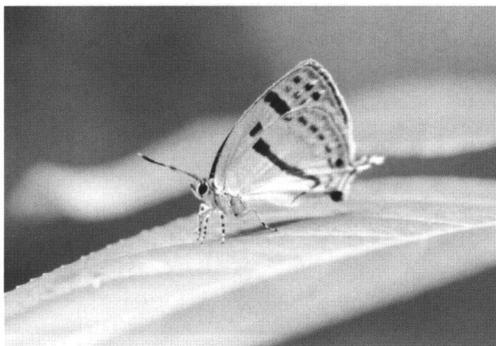


図12. ミズイロオナガシジミ  
(2007. 6. 3 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図13. トラフシジミ  
(2007. 6. 17 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図14. ベニシジミ

(2007. 4. 12 水生植物園 飯田晋一郎撮影)



図15. テングチョウ

(2007. 3. 8 食草園 撮影)



図16. アサギマダラ

(2007. 10. 4 武蔵野植物園 福田 光撮影)



図17. ヒメアカタテハ

(2007. 9. 26 水生植物園 福田 光撮影)

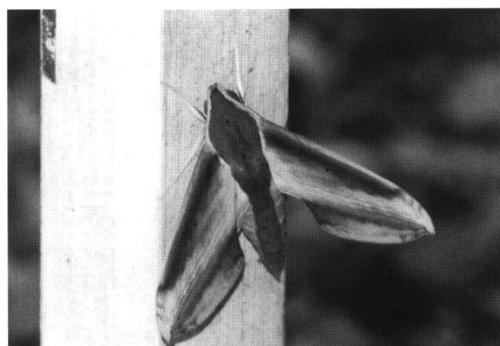


図18. キイロスズメ

(2007. 6. 16 正門前 飯田晋一郎撮影)



図19. アオドウガネ

(2006. 9. 15 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図20. コアオハナムグリ  
(2007. 5. 26 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)

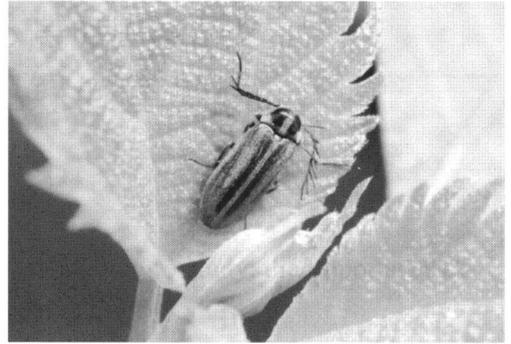


図21. ヒゲナガハナノミ  
(2007. 5. 16 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)

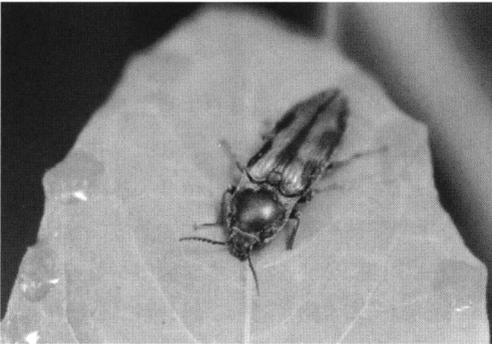


図22. トラフコメツキ  
(2007. 5. 8 水鳥の沼 飯田晋一郎撮影)



図23. キイロトラカミキリ  
(2006. 6. 15 飯田晋一郎撮影)



図24. キボシカミキリ  
(2007. 11. 14 水生植物園 飯田晋一郎撮影)



図25. クロウリハムシ  
(2006. 7. 22 水生植物園 飯田晋一郎撮影)